

災害ボランティアセンター運営マニュアル作成についての研究

神奈川大学工学部経営工学科 平野優生

1. 背景/目的

日本は自然的条件から災害が起こりやすい国

平成7年阪神淡路大震災「ボランティア元年」

・・・137万人以上のボランティアが活動

平成22年東日本大震災

・・・154万人以上のボランティアが活動

・全国196か所で災害ボランティアセンター設置



ボランティアを円滑に受け入れ適切に運営する為の
マニュアル作成

2. 方法

文献調査



マニュアルの評点化



マニュアル作成



評価/改善

3. マニュアルの評点化

- ・チェックリストを作成し既存のマニュアルを独自の基準で全30項目90点満点で10都市分評価

センターの閉鎖	閉鎖が決まったら、関係機関
	閉鎖の手順・引継ぎ・残務処理
	地元広報誌、全戸配布チラシの周知をする。
閉鎖後の活動の継続	対応を終わっていない引き継ぎ
	活動資金の余剰金があれば、活動報告、決算報告を作成する
	借用した資機材を返却し、返却後の業務引き継ぎについて

作成したチェックリスト（一部抜粋）

- ・表の左側に評価項目、右側に実施上の注意点や内容の詳細を記載

4. マニュアルの作成

- ・評点化や文献調査から以下の様なマニュアルを作成

施設の選定基準
 災害VCとして利用可能な施設の条件として以下の要件が考えられます。な：要件は必ずしも一か所で全てを満たす必要はありません。
耐震性が確保されている、土砂災害特別警戒区域外であるなど、施設自体が保されていること。
電気・ガス・水道などのライフラインが確保できること。
センター機能を果たせる空間を有し、ボランティアの受入から送り出しまでできるだけ短く、わかりやすく配置できること。
ボランティアの移送車両や物資の搬入搬出、仮設トイレの設置に活用するための屋外スペースが確保できること。駐車場は大型バスが進入、駐車車で済ませたい。

設備について
トイレが複数あること。
複数の電話回線が引けること。
複数のコピー機、パソコンなどの機器に対応可能な電源設備があること。自家発電設備、防災無線設備、シャワー、スタッフの宿泊スペースなどを備えたい。

周辺状況について
被災者の救援及び災害復旧に支障のない場所であること。
施設周辺のライフラインに被害が少ないこと。

様式1

災害ボランティア受付表(個人用)

受付日	年 月 日 () :	登録番号
受付者	保険 有 ・ 無	
備考		
付箋の色	<input type="checkbox"/> 赤 <input type="checkbox"/> 青 <input type="checkbox"/> 黄 ()	

※付箋の色分け→ 男：青 女：赤 特殊技能・専門職：黄
 ・ここに記載する個人情報は災害ボランティアの登録・活動以外の目的で使用しません。
 ・太枠のみご記入ください。

受付の状況	<input type="checkbox"/> 初めての受付 <input type="checkbox"/> __回目		
フリガナ 氏名			<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
住所	〒 _____		
連絡先	電話	携帯	緊急連絡先(続柄)
	FAX	メール	
ボランティア 保険	<input type="checkbox"/> 加入済み <input type="checkbox"/> 未加入(ボランティア保険に加入されていない方の活動はお断りします。)		

作成したマニュアル（一部抜粋）

- ・今後は作成したマニュアルのアンケート調査を行い随時改善を行っていく予定